

宮前区役所の存続と鷺沼駅前再開発の見直しを求める陳情署名の提出にあたって

宮前区役所の存続と鷺沼再開発を考える会 共同代表 小久保善一・秋好賢一

「鷺沼駅前再開発・タワマンの見直しと今の宮前区役所を存続し、2つの図書館・市民館の設置」を求める陳情署名に7,637名が賛同しています。
市と東急(株)は市民意見をしっかり受けとめ、コロナ禍の三密回避の緑豊かなまちづくりに見直しをすべきです。

署名活動を通じ「区役所移転・鷺沼駅前再開発に異議あり」の市民が多いことがわかりました。

コロナ禍で外出もままならない時に、多くの区民が署名に賛同しました。訪問すると、「いつ誰がそんなことが決めたの？知らなかった」「なんで移転するの？不便になるなー。鷺沼は遠くて高齢者や子供は行けないよ！」「コロナでお金がかかる時に100億円の税金でタワマンなんて使い方おかしいよ！」など多くの声が寄せられました。

あらかじめ署名用紙を配布した地域では、84円の切手を貼って郵送してくれた方が24日現在124通もあり、まだ続いています。署名と一緒に自分の思いを手紙で訴える方も大勢います。地域により、鷺沼の方が便利と言う方もいましたが、「宮前区に2つの図書館が必要」と言うと、賛同してくれます。また、向丘地区では、向丘出張所に行政手続きや相談機能、図書館や会議室など機能充実に強い期待があります。

7,637筆の署名は、宮前区では初めての大きな数です。

市は宮前区役所・市民館・図書館の移転を市民の声を聞かずに決めました。「市の図書館活動は、区の本館と分館の2館を軸に進める」と言いながら「新たな増設はせず、学校図書館を利用ください」との無責任な方針に怒りが爆発したものです。23万人が住む宮前区にはまともな図書館は1館しかありません。鷺沼駅前再開発は、100億円の税金を使い、区民生活に多大な影響を与える大規模な開発であるにも関わらず「容積率500%なので住民説明は必要ない=実質77.4%」として、タワマンの高さ制限をせず一方的な開発をすすめてきたことへの怒りの現れです。

補助金100億円と環境破壊のタワマンの見直し、二つの図書館・市民館の設置を求めます。

駅前道路（鷺沼線）を廃止して駅前敷地目一杯に2棟の超高層マンションは、6割の床は住宅です。交通渋滞、風害、日照被害、緑の削減など環境破壊が予想され、鷺沼住民にはあまりメリットはありません。この開発に、多額な補助金が使われます。また、多くの区民、特に高齢者や子供達は、鷺沼の図書館に行くのは難儀です。コロナ禍のまちづくりに求められるのは、豊かな緑と憩いの広場がある三密回避のまちづくりです。

市は、「コロナ禍での見直しはしない」と断言していましたが、コロナ危機を契機に、東急の見直し通告に、1年～1年半の見直し期間と変更しました。川崎市は、東急(株)追随ではなく、環境保全に責任ある立場から、安心、安全な自主的・積極的な見直しをはかり、補助金、タワマンの見直しと二つの図書館・市民館の設置をするように求めます。